

2年『走れメロス』ほか，近代文学

——近代文学を読んで魅力を伝え合おう 目ざせチャンプ，ビブリオバトル！——

○単元・教材の目標とポイント

【単元・教材の目標】

- ・本に書かれている考え方や作者について知り，それを読書に生かしている。

〔知識及び技能〕(3)エ

- ・本を読み，その魅力を交流し合うことで自分の考えを広げたり深めたりしている。

〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(1)オ

【単元・教材のポイント】

読書は，「心情が豊かになる」「集中力がつく」などの効果が得られ，生徒たちの言語生活を向上させるためにも，欠かせないものである。しかし，生徒たちの読書活動には課題が多い。不読者の数が多いことや，読書する時間が少ないこと，読書の幅が狭いことなどがある。本単元は，そのような課題を解決すべく，国語の授業をきっかけとして，生徒たちの主体的な読書活動を推進することをねらいとしたものである。また，読書の幅を広げることを期待するうえで，扱う教材や読み広げる対象は，近代文学としたい。

本教材『走れメロス』（太宰治）は，教科書の定番教材となっている作品であるが，その魅力は色あせないものであり，世代を超えて，感動をもって読み継がれていると思う。巧みなストーリー展開であり，主人公をはじめとした，生き生きと描かれる登場人物に彩られ，読み手は胸を高鳴らせながら読み進めていくことだろう。生徒にとって耳慣れない語句はややあるものの，近代文学に対して敷居の高さを感じている生徒にとっても，困難を感じづらい作品であると考ええる。

このような，『走れメロス』という近代文学作品を読んで得た考えや感動をもって，他の近代文学作品に読み広げると，その魅力に浸ることができるのではないかと考える。その際，「ブックリスト」や「読書ノート」を活用して計画的な読書を位置づけると，さらなる主体的な読書につながると考える。なお，中学1年生の教材である，『蜘蛛の糸』（芥川龍之介）を扱う際に，近代文学のおもしろさを味わうことができていると，本単元は関連性をもって学ぶことができると考える。また，本単元は「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れたものとする。生徒の主体的な読書への取り組みを重視し，ビブリオバトルや感想の交流による対話的な活動を取り入れ，深い学びとなることを目指せば理想的である。

〈言語活動のポイント〉

今回，言語活動として，〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(2)イを踏まえ，ビブリオバトルによる本の紹介を設定した。ビブリオバトルは，小学生から大人まで誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームである。近年，校種ごとを対象に多くの大会が開かれるなど，注目されている。対戦形式で本を紹介し合い，チャンプ本を決定するという活動は，生徒たちの読書に対する意欲を高めるものであると考える。近代文学に対して，難しさを感じ，積極的に読もうとする姿勢の低い生徒が，すすんで読書をするようになるには，ビブリオバトルは効果的であると考えられる。『走れメロス』を読んで近代文学のおもしろさを味わい，他の近代文学作品への読み広げへつなげ，授業内で読み通した本（作品）を，ビブリオバトルによって交流することで，さらなる主体的な読書へとつながることを期待した取り組みである。授業での読書活動への契機を得て，読書に親しむことになった生徒が，その時だけではなく，大人になっても読書を継続していくことを展望としたい。

○評価規準

知識・技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・本に書かれている考え方や作者について知り，それを読書に生かしている。	・本を読み，その魅力を交流し合うことで自分の考えを広げたり深めたりしている。 C読むこと	・自らすすんで読書をし，物語に対する感想や考えを紹介しようとしている。

○学習指導計画（全 7 時）

時数	学習活動	評価基準
1	○学習の目標や進め方をつかむ。 ○『走れメロス』を読んで感想を書く。	◇『走れメロス』に興味をもって読み，自分の考えをもとうとしている。
2	○登場人物，各場面の内容を捉える。	◇文章中の語句の意味を理解し，内容を捉えている。
3	○『走れメロス』についての考えをまとめ，交流する。 ○ブックリストに読んでみたい作品を記入する。	◇『走れメロス』に対する考えをまとめ，交流している。 ◇ブックリストを活用し，計画を立てて次の読書につなげようとしている。
4	○他の近代文学を読み，ビブリオバトルの構想を練る。	◇他の近代文学をすすんで読み，ビブリオバトルメモとして構想を練っている。
5	○ビブリオバトルメモをもとに，練習をする。	◇ビブリオバトル本番に向けて，効果的な語句を検討し，練習を重ねている。
6	○ビブリオバトルを行う。	◇ビブリオバトルを行い，近代文学に対する自分の考えを広げたり深めたりしている。
7	○クラスのチャンプ本を読む。 ○「ブックリスト」に読んでみたい本を書きこむ。 ○『走れメロス』をもう一度読む。 ○学習の振り返りをする。	◇本を読んで自分の考えをもつことができる。 ◇ブックリストを活用し，計画を立てて次の読書につなげようとしている。 ◇学習の振り返りをし，自己の学びを振り返っている。

○本時の展開（6 / 7 時）

【ねらい】

- ・ビブリオバトルを行い，近代文学に対する自分の考えを広げたり深めたりする。

【他の近代文学の例】

1 時間程度で読み切ることのできる短編小説をあげる。

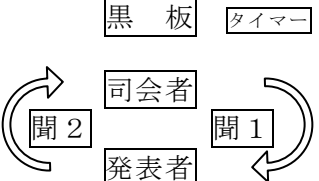
（長編小説を読みみたい場合は，授業外の時間で読むことを課題とする。）

- ・芥川竜之介『鼻』『トロッコ』
- ・宮沢賢治『注文の多い料理店』『よだかの星』
- ・夏目漱石『夢十夜』『文鳥』
- ・森鷗外『高瀬舟』『阿部一族』
- ・太宰治『思ひ出』
- ・志賀直哉『小僧の神様』『清兵衛と瓢箪』
- ・小川未明『赤い蠟燭と人魚』

【ビブリオバトルについての参考資料】

- ・『読書とコミュニケーション ビブリオバトル実践集 小学校・中学校・高校』
須藤秀紹・粕谷亮美（子どもの未来社 2016）
- ・『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』谷口忠大（文藝春秋社 2013）

○本時の展開例

学習活動	指導の留意点	◇評価基準
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ビブリオバトルを行い、近代文学に対する自分の考えを広げたり深めたりしよう。 </div> <p>2 ビブリオバトルのルールと授業の流れについて確認する。</p>	<p>○本時の流れについて捉えさせるために、内容をまとめたプリントを確認させる。</p> <p>○スムーズな取り組みをさせるため、ルールと、クラスのチャンプ本決定までの流れを確認させる。</p>	<p>◇本時のねらいを捉えている。</p> <p>◇ビブリオバトルのルールと授業の流れについて確認している。</p>
<p>ビブリオバトルのルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介の制限時間は3分（本来は5分だが、今回はミニ・ビブリオバトルの形式）。時間を使い切るほどよい。 ・話すときには原稿は見ない。 ・発表のあとに1分間のディスカッションを行う（本来は2～3分だが、今回はミニ・ビブリオバトルの形式）。 ※ディスカッションは、発表者にとっては言い足りなかったことを補足するチャンスであり、聴き手にとっては不明点やさらに聞きたいことを確かめ、判断材料にするチャンスであることを確認させる。 ・チャンプ本を決める（いちばん読みたいと思った本を一人一票で選び、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする）。 		
<p>3 4人班で、ビブリオバトルをする。（予選）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>共通の班体形</p>  </div>	<p>○班で役割分担をし、隊形を整えて行わせる。役割は順次交代する。</p> <p>○紹介するたびに「交流メモ」に記入させる。</p> <p>○タイマーを設置し、時間を意識しながら紹介できるようにする。</p> <p>○バトルの開始に合わせ、音響（笛など）を取り入れると効果的である。</p>	<p>◇ビブリオバトルに参加し、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>
<p>4 二つのグループでビブリオバトルを行う。（準決勝）</p>	<p>○4人班の、各チャンプ本によるバトルとさせる。聞き手は、先ほど（予選）の班のチャンプ本のないグループに参加させる。（4人班をベースに全体を2つのグループに分ける。代表者については、自分の4人班ではないグループで発表させる。）</p>	
<p>5 決勝バトルを行う。（決勝）</p>	<p>○二つのグループのそれぞれのチャンプ本によるバトルを行い、クラスのチャンプ本を決定させる。</p>	
<p>6 本時を振り返る。</p>		<p>◇本時に考えたことをまとめている。</p>

○授業の成果と課題

【成果】

実践を行う前、近代文学は生徒たちにとって魅力あるものではないかもしれないという不安があった。しかし、「ビブリオバトルをやってみて、近代文学をもっとたくさん読んでみたくなった。」といった声を多数聞くことができた。以下は、生徒のコメントより。

- ・さらに本が好きになった。どうしたらみんなに選んでもらえるか、魅力を伝えられるか考え、さらに紹介する本を理解することができた。同じ作品や作家でも、人によって魅力の感じ方が違い、おもしろかった。
- ・みな、発表のクオリティーが高かった。本を紹介し合ったことで、その本の特徴や作者の人生や感情、紹介者がどこに魅力を感じていたかを知ることができた。決勝戦はハイレベルだった。
- ・今回の授業をやる前は、正直あまり近代文学を読みたいとは思わなかった。しかし、ビブリオバトルの発表を聞くことによって、近代文学のおもしろさを知ることができた。日々の読書にも取り入れてみたい。
- ・本は、人の心を大きく揺さぶるものだと思った。どんなにささいな物語でも、そこには生きていくための大切なことが書かれてあり、それをビブリオバトルで学ぶことができた。

ビブリオバトルによる交流の場を設定したことは大変効果的であった。友人が紹介する本というだけでも興味をひく。さらに、その内容が魅力的であれば、読みたい気持ちは強くなる。ビブリオバトルの「制限時間の中で、紹介とディスカッションを行う」というルールが、生徒たちの、臨場感をもって取り組む姿勢につながる。「原稿は見ないで紹介する」ということに不安があったが、それこそが生きたバトルにつながるのだと思った。メモを取ったり、構成を考えたりしておいたので、生徒たちも話しやすそうにしていた。また、「バトル」ということで、どうやったら他の生徒よりも票数を集められるかと試行錯誤し、内容に磨きをかけていた。教室全体が一体となり、熱気のもと交流が行われた。今回は近代文学の紹介としたが、他のジャンルやテーマなどに対しても、生徒たちが意欲をもって取り組める、有効な活動だと考える。

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった実践としたことで、生徒たちが生き生きと活動できる学びの場となっていた。

【課題】

近代文学に対しては、内容の理解が難しい生徒がみられた。最初から最後まで読み通せるようサポートするとともに、個人に合った選書をさせる必要がある。

また、ビブリオバトルにおいて、3分間を使い切ることが難しい生徒がみられた。作品についての読みを深めるだけでなく、構成を練り、何度も練習させて時間を効果的に使わせる必要があると感じた。

「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業については、方法や形だけにならず、つけたい力を明確にしていくことが大切である。

授業後のアンケートを見ると、76%の生徒が「以前より読書を好きになった」と答え、近代文学に対しても約60%が「興味をもてた」と答えている。行うも、読書への意欲を喚起するような実践の直後は、読書に対する生徒たちの意欲が高く、読書活動が推進されたと判断していた。しかし、時間が経つとともに戻ってしまう。やはり、系統性をもって、何度も繰り返し行う必要があるのだと考える。また、「生活に根ざす読書」にしていくためには、日ごろから読書に親しみ、読書を役立てることが不可欠である。なぜなら、読書活動は、授業だけでなく日ごろの生活から推進されると考えるからである。